

＊コロナ禍では避難所の数等に問題があると認めながら  
「一人4㎡(2m×2m)のスペースに、家族4人が入ってもらうこともある」

＊美浜原発事故時には、おおい町が避難先

原発立地の町が避難者を受け入れる現行計画は、返上すべき

おおい町民(約8,100名)より多い、美浜町民(約9,300名)を受け入れる計画

約9,300名をわずか10か所の学校体育館等で受け入れ

■■■■ 「避難先の兵庫県伊丹市の担当者が19日に来られ、避難について情報共有した」

10月22日、「ふるさとを守る高浜・おおいの会」と「避難計画を案ずる関西連絡会」は共同で、おおい町に申し入れた。感染症拡大防止と原発事故の避難は両立しないことを訴え、コロナ禍では原発の運転に反対するよう求めた。おおい町からは、防災安全課の川尻課長を含め4名が対応し、市民は福井から3名、大阪・兵庫から6名が参加した。1時間という限られた時間で、具体的な話を聞けない部分も多かった。



全体として、コロナ禍では避難所スペース等に課題があると認めながら、具体的には何も決まっていなかった。内閣府の「おおい地域の緊急時対応」、福井県の指示に従うとの一般的で形式的な回答だった。おおい町は大飯・高浜原発事故時には避難する立場だが、他方で、美浜原発事故時には、美浜町住民の避難先となっている。原発立地の町に避難するというこの異様な計画については、現行計画を福井県に返上すべきだと求めた。

また、10月19日には、おおい町の県外避難先の一つである、伊丹市から市長付参事を含め5名の担当職員がおおい町を訪問し、コロナ禍の避難等について情報を共有したとのことだった。私たちは12日に伊丹市に申し入れ、おおい町との協議を求めていた。どのような議論になったのか等、今後伊丹市にも内容を聞いていきたい。

以下に、おおい町申入れのいくつかの点について紹介する。

◆8月の防災訓練：安定ヨウ素剤の服用指示等はなかったが、今後取り入れたい

8月27日の福井県の防災訓練は、コロナ禍で大飯原発と高浜原発が同時発災するという前提で行われた。しかし、安定ヨウ素剤の服用指示は全くなかった。これについて「今回は感染症対策に重点を置いた。今後はヨウ素剤も取り入れたい」と回答。私たちは、コロナ禍ではとりわけ避難に時間がかかるため、UPZ住民には安定ヨウ素剤の事前配布を求めた。課長は「町としても事前配布を実施したい。福井県と関係市町でワーキンググループを作り議論しているが、該当する住民が多いため、具体的には進んでいない」とこれまでと変わらない回答だった。

訓練の参加者が50名とあまりにも少なすぎることについては、「訓練で感染が拡大しないよう配慮した。今後は人数を増やしていきたい」。コロナ禍の避難で、バスは足りるのかを問うた。自家用車からバスに乗り換える町民は7,776名。「密」を避けるために1台に20名が乗車すると想

定し、389台が必要と回答。福井県は907台のバスを手配していると紹介し、問題がないかのよう  
に答えた。しかし、大飯原発U P Zには高浜町・小浜市・若狭町・美浜町も入り、県内で72,000  
人以上になる。単純に1台20名とすれば、3,600台のバスが必要になる。バスは足りない。

#### ◆「コロナ禍では避難所スペース・人数には課題がある。福井県と協議する」

##### 「一人4㎡（2m×2m）の避難所スペースに、家族4人が入ってもらうこともある」

おおい町住民約8,100名の避難先は、福井県の敦賀市と、兵庫県の伊丹市・川西市となっている。  
事故時の風向きを考慮して、避難先を県内外に設けてある。10月12日に私たちが伊丹市に  
申入れた際には、伊丹市はコロナ禍では避難所は2倍必要になり、事実上足りないと回答してい  
た（伊丹市は、おおい町から約4,500名の住民を、市内24か所の学校体育館で受け入れる計画）。

他方、おおい町の県内避難先は敦賀市で、おおい町全住民約8,100名を市内のわずか20か所  
の体育館等で受け入れることになっている。コロナ禍で「密を避ける」ためには20か所では足  
らない。課長は「スペースや収容人数には課題がある」と答え、事実上足りないことを認めた。  
さらに敦賀市は、8月の防災訓練で、敦賀市にも地震などの被害があれば受け入れは困難だと、  
話していたことも紹介した。一体どうするのか、避難できないため、再稼働に反対すべきではな  
いかと問うた。すると課長は、福井県・おおい町のコロナ禍ガイドラインでは、一人4㎡（2m  
×2m）の避難スペースを確保することになっているが、「4㎡に家族4人が入ってもらうことも  
ある」と話し出した。一人1㎡では横になって寝ることもできない。数字合わせにしてもひど  
すぎる。また、伊丹市等の避難所で使用する備品は、避難経路途中の三木市に倉庫を借りて備蓄  
しているが、簡易ベッド等はないとのことだった。

#### ◆美浜原発事故時にはおおい町が避難者の受け入れ先

関電は来年1月に原発美浜3号の再稼働を計画している。美浜町全住民（約9,300名）の避難  
先は、風向きによって西のおおい町と北の大野市の2か所となっている（兵庫県の避難先はない）。

▶ 原発立地の町おおい町に避難する計画自体が異様なものだ。地震等で美浜原発が事故の場合、  
稼働中の大飯原発も被害を受ければ、おおい町に避難はできない。高浜町から参加した住民は「立  
地の高浜は、避難受入にはなっていない。計画は返上すべき」と訴えた。課長は、全国的にみて  
も、立地町への避難はおおい町と敦賀市だけと話したが、国・県の計画の従うと言うだけだった。

▶ さらに、人口8,100名のおおい町が、町の人口より多い9,300名の美浜町の避難者を受け入  
れるなど不可能だ。9,300名の避難者を、おおい町内のわずか10か所の学校体育館等で受け入れ  
る計画になっている。課長は「コロナ禍ではスペース等に問題はある。福井県と協議したい」と  
他人事のように述べるだけだった。「一人1㎡」では解決にはならない。

▶ 美浜町から自家用車で避難して来る場合、避難所に指定されている佐分利小学校、本郷小学  
校、名田庄小学校、名田庄中学校では、スクリーニングで基準値4万cpm<sup>\*</sup>以下の車両は除染な  
しで校庭に入ってくる。スクリーニングはタイヤとワイパーだけを測定し、基準値を超えても紙  
ウエスで拭き取るだけ。避難受入中も学校では授業実施を前提にしているとのこと。参加者は、  
これでは汚染が校庭に持ち込まれ、子どもたちの安全が脅かされると厳しく問うた。課長は「国  
が決めた基準を守っている。水を使わない拭き取り除染も認められている」とまたも形式的な回  
答だった。（※ 4万cpmは小児の甲状腺被ばく300mSv相当。安定ヨウ素剤服用基準の6倍に相当）

拭き取り除染の改善を求めた伊丹市・川西市にも、町はその後の改善策を伝えていない。

実効性のない避難計画の実態を福井・関西で広め、老朽原発美浜3号の再稼働を止めていこう。

2020.10.26 おおい町申入れ参加者一同